

離乳食場面における母と子の相互交渉の経時的变化

脇田 満里子¹⁾ 野村 幸子²⁾

奈良県立医科大学医学部看護学科¹⁾ 沖縄県立看護大学²⁾

Temporal changes of mother-infant interaction
process through the mealtime setting of the weaning period

Mariko WAKITA¹⁾ Sachiko NOMURA²⁾

Nara Medical University School of Medicine Faculty of Nursing¹⁾

Okinawa Prefectural College of Nursing²⁾

要旨

離乳期の食事場面を通して、乳児と母親の行動を分析することにより、母子相互交渉の深まりや乳児の食行動の発達に及ぼす母親の行動を明らかにすることを目的に、離乳期の子とその母2組を対象に自食の準備となる生後7か月、8か月、9か月の3時期の食事場면을ビデオ収録し分析した。

結果、2事例とも月齢が進むにつれて、摂食機能の発達が見られ、また自食への欲求が増していた。このため、母親は乳児の表情や行動に敏感に反応し、行動の意味づけや同調行動をすることで乳児の食行動の発達を促していた。また、母親の食を促す行動の中に言葉かけ、見つめや微笑みかけなど多く見られ、乳児の応答性も増し、母子相互交渉の深まりが見られた。一方、乳児の気持ちや行動に対応した母親の行動がとれない場合は食行動は進まず、同時に母子相互交渉も減少した。

従って、子どもの意思や発達を理解し、子どもの気持ちや行動に対応した母親の行動をとることの重要性が示唆された。

キーワード：離乳期、母子相互交渉、摂食行動、母親の行動

I. はじめに

発達初期の乳児に対する母親の行動は、乳児の情緒発達や社会化の第一歩を築くなど重要な役割を担っている。

生後3か月後の授乳場面では、母と子の行動間に同調性を認め、母子相互交渉を深めていくための行動は出生直後と比較すると増加した(脇田,1999)。

生後5・6か月頃になると、子どもの注

視方向に養育者の注視を重ねることが出来る共同注視が可能となる(Ninio,A,1983)。他者と注意を共有する能力は乳幼児期に最も顕著にみられ、生後6か月頃では他者あるいは対象物の2項関係のみであったのが8・9か月では自己-対象物-他者の3項関係へと発展して、相互交渉が深まることによって社会的コミュニケーションをとることが可能となっていく(塚田ら,2001.矢

藤,2007)。

また同時にこの時期は離乳開始時期と重なり、離乳食は5・6か月頃より開始して、形のある食物を口に上手く取り込んで咀嚼できるようになり、必要な大部分の栄養素が母乳あるいは育児用ミルク以外から摂取可能となる12か月～18か月頃で完了する(厚生労働省,2007)。

そこで今回、乳児の離乳食場面に着目し摂食機能の発達や3項的相互交渉場面において、養育者が乳児の摂食行動の発達をどのように促しているかを明らかにすることを目的に、乳児の摂食の基本機能を獲得し、自食の準備となる生後7か月から生後9か月までの2名の乳児を対象に、縦断的研究を実施した。

II. 方法

1) 対象と方法：対象者は近畿に住む母子2組(いずれも初産婦と第1子)で、生後7か月、8か月、9か月(いずれも誕生日の3日以内)の3時期の普段通りの離乳食場面(食事開始から終了まで)を、母子のやり取りが見える位置に8ミリのビデオカメラを対象者が設置して月1回対象者の自宅で収録した(研究者は同席せず)。1回の食事時間は約20～30分間であった。

2) 分析方法

VTR録画を再生し、母親と乳児のすべての発話、発声および行動を文字化し、収録した2事例の生後7か月、8か月、9か月時の摂食場面を母親の行動、乳児の行動と摂食機能の発達に3分類した。

母親の行動を1)食物・食器・食具に関する行動 2)姿勢調整に関わる行動 3)

食物・食具の提示 4)食を促す行動 5)食以外の行動とし、乳児の行動を1)食物・食器・食具への関わり 2)母親への関わり 3)食行動 4)食以外の行動に分けてその内容を明らかにした(表1・表2)。

また、摂食機能の発達は1)口への取り込み 2)咀嚼機能に分けてその内容を明らかにした。

全体の中で母子相互交渉を示した場面を提示した(表1・表2の下線部分)。

次に、2事例の3時期での母子相互交渉場面を母から子は1)母の言葉がけ 2)子の行動に対応した母の言葉がけ 3)子への見つめ 4)子への微笑みかけ 5)オノマトペ 6)その他の母の行動 計6項目、子から母は1)母への見つめ 2)母への微笑みかけ 3)発声・発語 4)手をバタバタ動かす 5)その他の子の行動 計5項目の合わせて11項目の出現数をLewis et al(1974)の観察項目および観察法を用いて5秒間でのワン・ゼロ法でカウントした(表3・表4)。

母親の応答性や母子相互交渉の深まり、食行動の経時的な変化を明らかにした。

III. 倫理的配慮

研究対象者に研究の目的および方法を説明し、研究協力の同意を得て実施した。研究協力については参加途中であっても中断できること、分析にあたっては個人が特定されないように処理すること、データは研究以外に使用しないことを説明し、書面にて承諾を得て実施した。筆者の所属する研究倫理審査会の承認を得て実施した。

表1.食事摂取中の乳児と母親の行動 Rちゃん(男) 生下時体重:2975g 正期産 離乳開始:生後5か月

		生後7か月 (w=7200g)	生後8か月 (w=7700g)	生後9か月 (w=7660g)
食事場面の状況		ベビーラック使用で母子対面に位置する	ベビーラック使用で母子対面に位置する	ベビーラック使用で母子対面に位置する
食物の形状		ドロドロ(白身魚のあんかけ、かぼちゃとにんじんの野菜スープ)	ドロドロ(サツマイモいりお粥、たらと大根の煮物、かぼちゃスープ)	ドロドロ様(納豆粥、野菜サラダのオレンジソース和え、たらのみぞれ煮)
母親の行動	1)食物・食具に関する行動	・母親が児の口に食物をスプーンでもっていく ・乳児が食物の入った皿に触れようとすると腕で防御し触れさせない	・母親が児の口に食物をスプーンでもっていく ・乳児が食物の入った皿に触れようとすると腕で防御し触れさせない	・母親が児の口に食物をスプーンでもっていく
	2)姿勢調整に関わる行動	・ベビーラック上で姿勢が傾いてきたのを直す	・ベビーラック上で姿勢が傾いてきたのを直す	・ベビーラック上で姿勢が傾いてきたのを直す
	3)食物・食具の提示		・テーブルの上にポケットにスプーンの入ったエプロンを置く ・かぼちゃスープの入った食器を置く(Rちゃんの好きなど言いながら)	・空のスプーンを持たせる
	4)食を促す行動	・オノマトペ 母親が乳児の動作を音で表す「ハイ、あ〜ん」「はいはい〜」「良かった〜」「もぐもぐ」「ご飯よ」「いただきます」「おいしい?」「もぐもぐ〜」「うん、おいしい」「これでおしまいね」と声かけしながら介助している	・「ごちそうさま」と乳児の手に手を添えて合わせる ・オノマトペ「もぐもぐ〜」と繰り返し ・「いただきます」「おりこうだったね」→乳児が喜ぶ	・泣き出したらお茶の入った哺乳瓶を与える、一度離すと泣き出すため再度繰り返す ・「お茶ほしいの?」「自分で食べてくれたん?」
	5)乳児との関わり		・乳児のテーブルに乗せた下肢を「食べちゃうぞ〜」→乳児が笑う ・活発に身体を動かしている乳児の相手になり声かけしている	
乳児の行動	1)食物・食具・物への関わり	・口元に近づくスプーンを見つめる ・カメラやスプーンからこぼれた食物を見て触ろうとする	・食器、食器の中に手を入れ触れようとすると(母親が腕でガードするため触れることができない) ・目の前に置かれた食器の中を身を乗り出し覗き込もうとする ・目の前に置かれたかぼちゃスープの入った食器を見つめる	・スプーンを手に持ち、他の手に持ち変える。手首を返してスプーンを振る ・目の前に置かれた食器を見つめる ・母親の差し出すスプーンやお茶の入った哺乳瓶を見つめる
	2)母親への関わり	・口にスプーンを通して食物を取り込むと母親を見つめる。母と目が合うと笑う。	・スプーンで口に食物が入るたび母親の顔を見つめる。見つめる時間が長くなる ・スプーンで口に食物を取り込んでいるが途中で泣き出す ・「ごちそうさま」と手を合わせて笑う ・「うーうー」母親に対し会話のように繰り返し発声する	・口にスプーンを通して食物を取り込むと母親を見つめる ・(口渇がある?)泣き出す。哺乳瓶を口から離され再び泣き出す。機嫌が悪くなる
	3)食以外の行動	・上肢をばたばたさせ食器に触ろうとする。母の目を見た後手をバタバタ(喜びの表現?)	・上肢をばたばたさせている	・下肢をベビーラックのテーブルの上に乗せる、活発に身体を前後左右に動かす(遊び) ・「うーうー」とさかんに声を発する ・手に持ったスプーンでテーブルを盛んにたたく ・スプーンを持ちかえる ・スプーンをなめる、口に入れる ・指を口に入れる
	4)食行動	・スプーンで口に運ばれると口を開け、食物を取り込む	・スプーンで口に運ばれると口を大きく開け食物を取り込む	・スプーンで口に運ばれると口を大きく開け食物を取り込む ・スプーンで差し出された顔を背け食べない、泣き出す、機嫌が悪い
摂食機能の発達	1)口への取り込み	・スプーンから取りこぼし少なく捕食できる	・スプーンから取りこぼし少なく捕食できる	
	2)咀嚼機能	・口唇が左右に伸縮	・口唇・口角をねじらせる? 食べる意欲あり	・もぐもぐと咀嚼が見られる。

表2.食事摂取中の乳児と母親の行動 K ちゃん(男)生下時体重:2900g 正期産 離乳開始:生後5か月

	生後7か月 (w=7000g)	生後8か月 (w=7170g)	生後9か月 (w=7340g)	
食事場面の状況	ベビーラック使用で母子対面に位置する	ベビーラック使用で母子対面に位置する	ベビーラック使用で母子対面に位置する	
食物の形状	一部どろどろ(しらす, にんじん入りお粥, ジャガイモマッシュ, みかんヨーグルト)	つぶし状(お粥, 納豆とジャガイモのマッシュ, キャベツとレバー, バナナヨーグルト和え)	つぶし(食パン, スライスチーズ, コーンスープ, ミルク, みかん)	
母親の行動	1) 食物・食具に関する行動	・母親が児の口に食物をスプーンでもっていき	・母親が児の口に食物をスプーンでもっていき ・バナナを乳児に持たせ自分で食べさせている ・母親も自分の食事を傍らのテーブルに並べ共に食べる	
	2) 姿勢調整に関わる行動	・ベビーラック上で姿勢が傾いてきたのを直す	・ベビーラック上で姿勢が傾いてきたのを直す	
	3) 食物・食具の提示	・食物の入った食器を乳児の目の前のテーブルに並べる ・空のスプーン・皿を持たせている	・食物の入った食器を乳児の目の前のテーブルに並べる ・空のスプーン・皿を持たせている ・戸外の音に対して乳児が窓に顔を向けると「トラックだねえ」と声かけする	・食物の入った食器を乳児の目の前のテーブルに並べる ・乳児が手に取りやすいように食パンやチーズを近くに置きなおす ・食パンを乳児が食べやすいように一口大にちぎって見せる ・一口大の食パンやチーズを手渡す ・「おいしいね」と母親が自分の食事を口に運び、カミカミしてみせる
	4) 食を促す行動	・Rちゃんが持っている食器を自分の手につけ泣き出すと、「痛かったね。」とすぐに乳児を抱き上げる ・オノマトベ「もぐもぐ」 ・「ハイ, あーん」「はいはい」「痛かったね」と繰り返す	・乳児の行動や表情に反応して行動見られる(食器を落とすと拾う, 泣くと「痛かったね」, 戸外の音に対し「トラックだね」, 「お父さん帰ってきたね」など) ・オノマトベ「もぐもぐ」「トーンして」「うまうま」「ニヤニヤニヤー」 ・「納豆よ」「お野菜よ」「えらいなあ」「ここにおいて～トーンして」「何かなあ」繰り返し発語多い	・乳児がバナナを食べた後, スープに手を伸ばすと「スープがほしいのね」とスープをスプーンで介助してあげる ・母親が自身の食事を自然に口に運んでいる ・オノマトベ「もぐもぐ～」「カミカミ」と表情豊かに繰り返す
乳児の行動	1) 食物・食具への関わり	・目の前に差し出された食物の入った食器をみつめる ・口元に近づくスプーンをみつめる ・母親が食物の入ったスプーンを口元に持っていくと自分の手を添えて自分の口へ運ぶ ・空のスプーン・皿をテーブルの上に置き, 両手, あるいは交互に持つ ・自分で持っている空の皿が口元に当たり泣き出す	・目の前の食器, スプーンを見つめる ・空のスプーンや皿を手で持つ ・母親の介助するスプーンに手を添えて自分の口に運ぶ ・食器に手を入れ食物を手で持つ ・手に持った食物を口に運び食べる	・自分でバナナ, 一口大の食パン等手で持ち, 口に運ぶ ・手づかみで食べている ・自分でスプーンを持ち食器から食物を救って口に運ぶがこぼれる
	2) 母親への関わり	・スプーンから口に食物を取り込むと母親を見つめる ・笑いは少ない	・母親の声かけに対しじっと母の顔を見つめ納得した表情 ・母親の表情・反応で共に笑う ・「うーうー」と発声し母親の顔を見つめる	・食事している母親の顔を見つめる ・母親の反応にニコッと笑う ・「うーうー」と発声し母親の顔を見つめる
	3) 食以外の行動	・上下肢をばたばた動かし身体が斜めになる(母親が姿勢を直す)	・身体, 上下肢を前後左右によく動かす	・身体, 上下肢を前後左右によく動かす
	4) 食行動	・スプーンで口に運ばれると口を開け, 食物を取り込む	・スプーンで口に運ばれると口を開け, 食物を取り込む	・スプーンで口に運ばれると口を開け, 食物を取り込む ・母親が一口大のパンを差し出すと手を伸ばして取る
摂食機能の発達	1) 口への取り込み	・スプーンから取りこぼし少なく捕食できる	・スプーンから取りこぼし少なく捕食できる	・手づかみ食べをする
	2) 咀嚼機能	・口唇が左右に伸縮	・口唇・口角をねじらせる	・もぐもぐと咀嚼がみられる

表 3.R ちゃんの母子相互交渉
場面の出現数
(生後7～9か月)

母→子	7 か 月	8 か 月	9 か 月
母の言葉が け(一方的)	24	11	15
子の行動に 対応した母 の言葉がけ	12	28	38
子への見つ め	持 続	持 続	持 続
子への微笑 みかけ	4	5	1
オノマトペ	8	9	9
母その他	0	0	0

表 4.K ちゃんの母子相互交渉
場面の出現数
(生後7～9か月)

母→子	7 か 月	8 か 月	9 か 月
母の言葉が け(一方的)	10	8	10
母の言葉が け(子の行動 や気持ちを 理解した)	17	7	9
子への見つ め	持 続	持 続	持 続
子への微笑 みかけ	1	11	9
オノマトペ	11	7	6
母その他	1	2	3
			自分で 食べて みせる

子→母	7 か 月	8 か 月	9 か 月
母への見つ め	31	27	11
母への微笑 みかけ	11	2	1
発声・発語	2	30	4
手をバタバ タ上体を動 かす	3	4	1
子その他	1	6	10

子→母	7 か 月	8 か 月	9 か 月
母への見つ め	8	6	9
母への微笑 みかけ	0	8	8
発声・発語	2	6	11
手をバタバ タ上体を動 かす	5	0	1
子その他	3	2	3

IV. 結果

R ちゃん：7か月、8か月では食物の入った皿に触れようとしているが、母親が腕で遮っていた。食物や食器に興味を持ち始め、8か月では自分で食べようとする意欲は充分あるが、食器に手が届かず、中も見ることができない。

また目の前に置かれた食器の中を覗こうとする動作が見られるが母親はそれに応えていない。

9か月で空のスプーンを持たせると、持ち替えたり舐めたり口に入れたりしている。また、お茶を与えるタイミングと児の欲求が上手くかみ合っていないと泣き出した。

母子相互交渉では母の言葉がけは7か月から9か月へと月齢が進むにつれて増加していた。しかし、子どもの行動や気持ちを理解しての言葉がけが出来ていなかった。

したがって子どもから母への見つめ、微笑みかけが減少し、関心が食物や食具に移っていた。

また、8か月時には母との関係を身体で取ろうとしていた。つまり、自分から意図的に母親と関係性を取ろうと下肢をベビークラックのテーブルの上に乗せる行動が見られ、母親が手で降ろしてもまた下肢に乗せる動作が2回繰り返された。

3度目に母親はその足を掴んで「食べちゃうぞー」と母親の口を近づけ食べる真似をしたことで治まった。

K ちゃん：7か月、8か月では、遊びたい欲求に合わせて空のスプーンや皿を持たせ、楽しい雰囲気で見守っていた。また、乳児の表情をよく察知し、8か月ではさらに子の行動や気持ちを理解した言葉がけを

行っていた。

子どもに食具を持たせ、子どもの動きに合わせて食事の介助をしていた。

8か月では手に持った食物を口に運び、9か月では手づかみ食べが見られ、上手に咀嚼していた。また、母親も自分の食事を傍に並べ共に食べていた。

母子相互交渉では、母への見つめや微笑みかけが見られると、呼応するように子への微笑みかけが返され、さらに乳児は母親の反応を理解したような表情や発声が見られた。

R ちゃん、K ちゃんの母から子への言葉がけの相違では R ちゃんの場合は7か月→8か月→9か月へと言葉がけの数は多くなっているが子の行動に対応した母の言葉がけとなっていた。一方、K ちゃんの場合は言葉がけの数は多くないが子の行動や気持ちを理解した母の言葉がけとなっていた（表3・表4）。

V. 考察

R ちゃん：7か月、8か月では食物や食具に興味を示し、自分で食べてみたい欲求や機能の発達は充分あるが、その意欲に応えられていない。

このため、母子相互交渉においても子どもの行動や気持ちを理解しての言葉がけが出来ておらず、9か月においても同様にその傾向が見られている。

このため、子どもは不機嫌になり欲求不満が増すことで、子どもから母への見つめや微笑みかけが減少し、母子相互交渉の減少が見られた。

つまり、自我の芽生えが見られ、川田ら（2005）の乳幼児期の自己主張の発達を捉

えた研究と類似の場面が見られた。

8か月では下肢をテーブルの上に載せる動作の繰り返しは遊びの出現であり、このように、月齢が進むにつれて、2項から3項関係へとコミュニケーション活動が活発となり、母子の相互交渉が深まっていた。

Kちゃん：食物や食具をもたせ、自分で食べているという楽しい雰囲気の中で介助していた。

母親がバナナや一口大のチーズやパンなど手に持たせ、また自分も共食することで食べる意欲を引出し、食べたい気持ちを尊重した関わりを取っていた。

このため、9か月では手づかみ食べが見られ、食行動の発達が見られた。

さらに、乳児は母親と食物や食具との3項関係のもとに、母親とのコミュニケーション活動を活発化させ相互交渉を深めていると考えられた。

Rちゃん・Kちゃんともに、口への取り込みや咀嚼機能など摂食機能の発達が見られた。

VI. 結論

2事例とも月齢が進むにつれて、摂食機能の発達が見られ、また、自分で食べたいという自食への欲求や自我の芽生えが増していた。

このため、母親は乳児の表情や行動に敏感に反応し、行動の意味づけや同調行動をすることで乳児の食への興味や関心を持続させ、食行動の発達を促していた。

また、母親の食を促す行動の中に言葉がけ、見つめや微笑みかけなど多く見られ、月齢が進むにつれ乳児の応答性も増し、母

子相互交渉の深まりが見られた。

しかし、乳児の気持ちや行動を理解した母親の行動がとれない場合は、乳児は不機嫌となり、食行動は進まず母に対する見つめや微笑みかけなどの母子相互交渉も減少した。

母親も子どもの行動に振り回されている様子が見られる。子どもの対応への母親のちぐはぐさは子どもの発達とともに親子関係をはじめ、どのような影響があるのか、ますます子どもの扱いが困難とならないか危惧される。

従って、子どもの気持ちや行動に即した母親の対応を取ることで食行動が進み、さらに母子相互交渉の深まりが見られると言える。

このため、離乳食場面において、子どもの意思や発達を理解し、子どもの気持ちや行動に対応した母親の行動をとることの重要性が示唆された。

VII. 本研究の限界と今後の課題

今回は食事場面に限定して行動分析を行ったが、母と子の関わりが見られる他場面にも行動分析を広げて行う必要がある。

また、事例数を増やし、乳児の気質、母親の対話スタイルの個人差、性別や出生順位別での母子相互交渉の変化を明らかにしていく必要があり、今後の課題としたい。

謝辞

研究の目的および趣旨を理解し、離乳完了までの長期間にわたり、参加協力いただきましたお母様とお子様、その家族の皆様感謝します。

本研究は、第48回日本母性衛生学会学術集会上に発表した論文の一部に加筆修正を加えたものである。

参考文献

- Brown, J.R., & Dunn, J. (1992): Talk with your mother or your sibling?: Developmental changes in early family conversations about feelings, *Child Development*, 63, 336-349.
- 川上清文 (1989): 乳児期の対人関係, 川島書店.
- 川田学, 塚田みちる, 川田暁子 (2005): 乳幼児期における自己主張性の発達と母親の対処行動の変容: 食事場面における生後5ヶ月から15ヶ月までの縦断研究, *発達心理学研究*, 16, 1, 46-58.
- 厚生労働省 (2007): 授乳・離乳の支援ガイド 35-47.
- 小島康生, 入澤みち子, 脇田満里子 (2001): 第2子の誕生から1か月目にかけての母親-第1子関係と第1子の行動特徴, *母性衛生*, 42(1), 212-221.
- 小島康生, 入澤みち子, 脇田満里子 (2003): 第二子妊娠期間中における母親-第一子関係, *母性衛生*, 44(2), 289-299.
- Lewis, M. & Lee-Painter, S. (1974): An interactional approach to the mother-infant dyad. In M. Lewis & L. A. Rosenblum (Ed) *The Effect of the Infant on Its Caregiver*. N.Y.: Wiley, 21-48.
- 前川喜平 (2004): 写真で見る乳児健診の神経学的チェック法, 南山堂.
- Ninio, A. (1983): Joint book-reading as a multiple vocabulary acquisition device, *Developmental Psychology*, 19, 445-451.
- 杉田千鶴子, 脇田満里子 (1997): 新生児・母親間の相互作用と母性性の形成との相互関連について-出産直後の母親の対児イメージと母性性を中心に, *佛教大学教育学部論集*, 8, 15-33.
- 園田菜摘, 無藤隆 (1996): 母子相互作用における内的状態への言及: 場面差と母親の個人差, *発達心理学研究*, 7(2), 159-169.
- 外山紀子 (2008): 食事場面における1~3歳児と母親の相互交渉: 文化的な活動としての食事の成立, *発達心理学研究*, 19, 3, 232-242.
- 塚田みちる (2001): 養育者との相互交渉に見られる乳児の応答性の発達の变化: 二項から三項への移行プロセスに着目して, *発達心理学研究*, 12, 1-11.
- 脇田満里子 (1999): 母と子の相互交渉の深化と同調性-出産直後と3か月後の比較-, *奈良県母性衛生学会誌*, 12, 28-31.
- 脇田満里子, 野村幸子 (2007): 離乳期の食事場面における母子相互交渉の経時的変化, 第48回日本母性衛生学会学術集会抄録集.
- 矢藤優子 (2000): 子どもとの注意を共有するための母親の注意喚起行動: おもちゃ遊び場面の分析から, *発達心理学研究*, 11, 153-162.
- 矢藤優子 (2007): 乳児と母親のおもちゃ遊び場面における注意の共有と母親の発話: 7ヵ月齢と12ヵ月齢を比較して, *発達心理学研究*, 18(1), 55-66.